

地方発の映画作りで盛り上がる



高山市合併10年記念の映画

高山市が合併してはや10年。去る7月、それを記念して製作された地方発の映画「きみとみる風景」(製作:高山市・高山市合併10年記念映像作品製作委員会)が東京・新宿の映画館でロードショー上映された。この映画は、合併して、日本一面積が広い市となった高山市の魅力的な部分や失われてゆく部分などを描いて、主人公が出会いを通して記憶の中にある「こころの風景」をたどっていく映画になった。オーディションで選ばれた主演の女優・松田まどかさんは高山出身。他にも重要な役を演ずる高山出身の女優・森林永理奈さんや市在住の俳優・プロデューサーの中田裕一さん、さらにはエキストラで出演した数多くの地元住民など、高山に縁のある人々が全面的に映画作りに関わった。

地元ぐるみで映画作り

昨今、映画で取り上げられた土地には海外からの観光客が思いがけないほど多数訪れるようになった。それを狙って映画ロケ地として売り込みを図る地方都市も数多く出てきている。

岐阜県が誇る国際観光都市、高山。そこから今回、地方発の映画が誕生した。高山市内の風情のある町並みや、郊外の息をのむほど美しい自然。風や光が感じられる映像には、高山を愛する人々の思いがいっぱいつまっているようだ。去る7月に新宿のK'sシネマで限定一週間ロードショーとして上映された際には、一般観客に混じり数多くの岐阜県出身者の姿も見受けられた。飛騨地方唯一の映画館であった旭座が閉館したのが去年――初の高山発信の映画作りが、始まった。

矢先の出来事だった。この映画が飛騨の映画館で見られることはもう無い。人口減少に悩む岐阜県を象徴するような話に一抹のほろ苦さも感じさせられる。この映画は、市合併10年記念式典の会場での上映後は市の文化ホールで上映されたり、市内のいろいろな催しの際に市役所から個別に貸し出されて観られているとのこと。市図書館内のモニターでも観られるそうだ。

中田裕一さん

今回の映画の仕掛け人の一人でありプロデューサー、かつ出演もしている俳優の中田裕一さんは高山市で「劇団太陽」を主宰している。劇団名は「芝居でこの世を照らしたい!」との思いから名付けたそうだ。これまで高山市国際交流の催しで演劇を製作するなど、高山市との関わりも持ってきた。2005年には新高山市合併記念の、飛騨の匠を扱った演劇「羅生門」で匠の役を演じている。(gakudanaiyou.hida.ch.com/e671917.html) (2015年公開予定)

今回この映画を作ることになったいきさつについてうかがうと、高山市から「2月1日の合併10年の記念式典会場にて何かアトラクションができないか?」と相談を受けたことから、「それなら合併前の10の旧市町村の名所などでロケを行い、一本の映画作品を製作して、市民たちと一緒に観たら盛り上がるのでは?」と提案したことからスタートしたとのこと。

「一般公募のオーディションには県外からも申し込みがあり、遠くは東京、愛知、兵庫、山口と、総勢57名で開催しました。が、その時の方々や、新たに市民エキス

トラ参加者を募り、また観光客の方々にもその場で出演をお願いし、100名を超える方々にご参加頂きました。」と中田さん。「高山には映画館が無くなったけれど、「きみとみる風景」は、10年の式典でホール上映され、また我々の手を離れて、地域の団体の主催による学校の体育館上映、公民館、また時には旅行バスの中で見てもらうなど、その関わりを通じてコミュニティの場となっています。映画をでっかいスクリーンで、また一人で観るのではなく大勢で観る価値も皆さんに感じて頂いているのではないのでしょうか?私も、大勢の市民とこの映画を観た感動は生涯忘れられません。」こうした手作りの試みやイベントが、地方都市を元気にしてくれる薬、だということを実感させられることばだ。

「実は昨年全編ロケを高山で行った映画がもうひとつあります。本田望結さん、中村玉緒さん主演の「ポプラの秋」(http://popuraki.com)です。私もこの映画にはスタッフ、キャストとして撮影の全日程参加していました。なんと9月12日に高山市民文化会館小ホールで先行上映を行う予定です。この映画も感動間違いのない名作です。皆さんにぜひともご覧いただきたいです。」

松田まどかさん

主演の松田まどかさんは、2000年のキネマ旬報ベスト・テンの新人女優賞を受賞した女優。今回、この映画に出演することになったいきさつについて、「重大役と映画のプロデューサーをつとめられた中田さんと共通の友人がいて、映画のキャストを募集しているという情報を



有働アナの講演は笑いがいっぱい☆

優先に街づくりを進めています。教育環境及び医療環境は岐阜県NO.1です。また、若い人が働ける場所を確保するため企業誘致を進め、多くの優良な企業に進出いただきました。

特に、女性が働きながら、子育てできる環境を整えることが最も重要であり、そのため、多治見市では「女性活躍会議」を本年7月に発足させました。市内の女性経営者や働く女性が多い企業の担当者や、官民協働で、職場環境の課題を見つけ、具体的な解決策を見出していきます。

少子化対策は国の責務で行うべきものですが、市の責務としてやるべきことは、きっちりとスピードと正確さを持って進めてまいります。

あさイチの魅力

柳澤敦子

その人は真っ白なワンピースに真っ赤なメガネで颯爽と現れた。ブラウン管の中の笑顔をそのままに・・・(十数年前から憧れ続けた人が目の前にいる。お話を聞ける)ドキドキしながら私は「あさイチノート」をギュッと握りしめた。その人とは・・・吉村会長も監修をされているNHK朝の情報番組でお馴染み、有働

由美子アナウンサーである。

「あさイチ」の番組では賛否両論ある中、敢えてデリケートなテーマに60人ものスタッフと真摯に向き合っているという。番組中に届く視聴者からのファックスも生の声として大切に取入れ、有働さんへの容赦のない質問にも真正面から答えようという心がけているようだ。他の二人の司会者とも息の合った家庭的な環境の中での番組作り。6年もの間、人気番組として続いている理由がよく分かった。

アメリカ駐在時、始めは英語力の無さに苦労したが、常に自分の意見を主張することで自らの存在感を強めていったようだ。この時の経験は今の自分に多大な影響を与えているという。

そして紅白歌合戦の司会者ならではの楽しいエピソードも沢山聞かせていただいた。ある年は進行に失敗し、終了まで時間が余ってあわてってしまったことなどを身振り手振りを交え話して下さった。会場中笑いの絶えない、あっという間の1時間だった。

一日一日を真剣に常に後がないという姿勢で過ごし、笑顔の奥には批判を受け止め、分析して乗り越える力を秘めている。一人の女性として大いに尊敬できる生き方にとても感動した。スポーツキャスター時代から大好きだった私の思いは増々強くなり、まだまだ続くだらう。そして私は今朝も洗濯機をまわしながらテレビの前に駆け寄るのである。



知りました。芸能の仕事始めた時から、いつか大好きな地元高山に貢献できる仕事ができたらな」と思っていたので、直ぐに応募を決めました。」

今回の役柄については、「私が演じた田口梓という女の子は、キャスト募集に書いてあったあらすじを読んだだけでも、私と似ている部分を感じたんです。それが応募の決め手にもなりました。なので共感する部分が大きく、役作りの苦労はあまり感じませんでした。強いて言えば、ほとんどのシーンが悩みを抱えているので台詞もぼそぼそと話し、仏頂面だったことがモヤモヤしました。(笑)」

今回のロケの風景で特に気に入った場所？との問いに、「地元といえども知らない場所が結構あって、改めて高山の自然の美しさを知りました。素晴らしい景色は数えきれないのですが、その中でも登山のシーンを撮影した十二ヶ岳の日の出、朝焼け、雲海は今でも忘れられません。



写真左から森林さん、松田さん、中田さん

言葉を失うくらいに美しかったです。」

高山市出身で、山王小学校・日枝中学校で学んだという松田さん。今回は高山出身の俳優や市民エキストラ・観光客など地元からの参加も多く、故郷でのロケということでも、「撮影9日間毎日誰かしら知り合いに会ったことは、地元ならではですね。」と笑う。「友人、そのご家族、先輩、後輩、親戚が出演していたり、スタッフとして参加して下さった方もいて、嬉しかったです。知り合い以外でも撮影中たくさんの方が「楽しみにしているよ」などと声をかけて下さって。人々の温かい思いで作られているんだ、ということをお芝居を初めて経験したのでとても新鮮でした！皆さまの温かいご声援、ご協力のもと、無事に東京上映を終える事ができました。でも、まだまだここからだとおもっています。高山そして岐阜の素晴らしい景色を知っていただくためにも、もっとたくさんの方に見て頂きたいなと思っています。」

森林 永理奈さん

高山市出身で斐太高校OGの森林さん。今回この映画と関わるようになったのは、Facebookで「高山の映画を作るの」でボランティアスタッフ、キャスト募集」と掲載されたページを見つけ、「高山で撮影が出来るなんて！大好きな高山の映画を作るならぜひ出たい!! スタッフでもい

いから関わりたい！」と事務所に相談したのが始まりとのこと。「主人公の幼な馴染みで現在は蕎麦屋のおかみさん」という重要な役どころだが、「実際に蕎麦屋で若おかみをしている方が保育園からの同級生と仲がよかったり、親が存じ上げている方がスタッフの方や共演者の方だったり」と、現場で「あれ！そんなんや〜！」と驚くことが多くとても楽しかった。」と語る。「また、中学生の頃、産休に入って学校を休まれた先生の娘さんがこの作品に出演されていて、「あの時の…！」ととても嬉しく思いました。主演の松田まどかさんとはオーディションの日に初めて会えたのですが、実はそるばん塾の先生と一緒に、いつか共演したいと思っていたので、共演できたのはとても嬉しかったです。」

今回のロケの風景については、「私も参加させていただいた美女高原の美しさには心奪われました。光が射して、緑がキラキラ輝く神聖な場所のように感じました。家族でも行きたいですし、若い方にはデートスポットにもお勧めだと思います(笑)」。

この映画全般については、「今回参加させていただき、高山の、きっと知り合えなかったであろう方とも仲良くなれて、素晴らしいご縁に感謝しております。きっと、高山のために何かしたいと強く思った方々が集まったからこそだと思います。これからも、高山以外でも、この映画を通じて高山の素晴らしい、人のあたたかさや伝えていけたら嬉しいですね。」

森林さんは12歳の頃、写真集を出したが、その撮影を高山でしたところ、「1番自然な表情をしているね。」と言われたの

で、「私の故郷は高山なんだなあ。」と感じたとのこと。「思い出すたびに胸がキュウとなる、大好きな故郷に生まれてしあわせです。これから高山や岐阜県の素晴らしい景色を伝えていけるようにたくさん活動したいです！まずは観光大使になれるよう、日々前進します。これから、高山生まれ、岐阜県出身のさるぼぼ女優・森林永理奈を見守っていただけると嬉しいです。」と抱負を語った。



岐阜県飛騨高山の美しい自然を背景に、女性写真家が地元の人々との出会いを通じ、自身の心の風景をたどっていく姿を描いた人間ドラマ。フォトグラファーとして働く26歳の梓は、「郷愁」をテーマにした作品を撮るため、小さい頃に暮らしていた高山市を訪れる。古い町並などの観光名所を撮影してみる梓だったが、「郷愁」という感覚がつかめず途方に暮れてしまう。そんな時、人力車夫の重太と知り合った彼女は、重太のおせっかいぶりにうんざりしながらも、様々な場所へ案内してもらい。そして重太の息子・武志やその友人たちとの触れ合いを通して徐々に心を開き始めた梓は、自分に問いかけるように心の内を語り出す。高山市の合併10周年を記念して製作された作品で、「@ベイビーメール」「スウィングガールズ」などに出演した同市出身の女優・松田まどかが主演を務めた。



観光客で賑わう道の駅は防災の砦

美濃にわが茶屋

「道の駅」には地元の農水産物の販売促進への寄与だけでなく、「防災拠点」としての重要性もあることが昨今見直され始めている。東日本大震災の際、岩手県遠野市の道の駅が情報や物資の集積・発信・発送の拠点となって救援や復旧に大いに寄与したことは私たちの記憶にも新しい。美濃市でも、平成16年10月の台風23号による長良川増水で甚大な被害を受けたことから市民の防災意識も高まり、多くの人を巻き込んで「防災拠点としての道の駅」が意識的に計画された。防災道の駅のモデルともなるべき美濃市の道の駅「美濃にわが茶屋」をご紹介します。

防災からの視点

ドライブの途中に立ち寄る道の駅は平成5年に始まった制度で、今年4月現在、全国に1,059か所も登録されている。うち35か所が内容の充実した「重点道の駅」に指定されており、さらに地域活性化の拠点としてダントツの6か所が「全国モデル道の駅」になった。一方、「防災拠点としての道の駅」の側面が着目されるようになったのは、平成16年10月の新潟県中越地震の際に道の駅が果たした役割に注目が集まってから。岐阜県でも今年度から県が管理する道の駅の防災機能強化を始めたところだが、まだ緒に就いたばかり。現在県内には国直轄で防災機能強化を進めている道の駅として、可児ッテ、ロックガーデンひちそう、美濃白川、飛騨街道なぎさ、アルプ飛騨古川がある。また、地域振興の好事例として、どんぶり会館、きりら

坂下、志野・織部、上矢作ラ・フォーレ福寿の里、おばあちゃん市・山岡、そばの郷らっせいみさとなど東濃地域にある10の道の駅を連合した「東濃道の駅連合会」も。県内に数十もある道の駅（下図参照）のなかから、今回は美濃市と国交省岐阜国道事務所が曾代の国道156号沿いに建設した美濃にわか茶屋を見ていこう。

美濃市といえば、今年「和紙 日本の手漉き和紙技術」が、世界遺産・記憶遺産と並ぶ国連の教育科学文化機関（UNESCO）の遺産事業の1つである世界無形文化遺産に登録されたのが記憶に新しい。ユネスコ政府間委員会は「産地に暮らすすべての人々が和紙作りの伝統に誇りを持っている」と評価。石州半紙と細川紙とともに登録された本美濃紙の伝統を誇る美濃市は大いに盛り上がっている。伝統の技術が国際的にも評価され、美濃和紙の生産や輸出にも弾みがつきそう。観光

への波及効果も大いに期待されている。その美濃市の道の駅では平成19年9月と平成24年8月に地域住民を対象と

した防災訓練と施設見学が実施された。これはそれぞれ、平成16年10月の台風23号と平成23年の東日本大震災による



被災を受けてのことと思われる。そして市の地域防災計画のなかで道の駅は明確に防災拠点として位置づけられている。なぜなら道の駅には広い駐車場があり、そこが市の交通の要所でもあることから、災害の際、物資の集積・配布の中心施設として、さらには市民や観光客などの避難場所として使われることが期待されているからだ。



守る機能を備えた施設とする」というコンセプトで建てられた美濃市の道の駅は、今や地域の、そして観光や地域防災の交流拠点となっている。

近くの岐阜県立森林文化アカデミーの先生が設計したという建物は広さ約1,270㎡で、長良杉を用いた中央棟と西棟があり、木造平屋建て。今後間伐が必要になる木が使われている。

「肘木組み物構法」による建築物は耐震が通常の1.5倍で、震度6強の地震にも耐えるとのこと。柱や梁などの軸組部材は「燃え代設計」で建てられており、仮に木の表面が燃えても構造耐力上支障の無い大断面とすることで、「45分程度の火災に耐える」というものだ。石膏ボードなどの防火被膜を用いることなく、木の風合いを見せながら「火災に強い美しい和風建築」となっている。車44台分の駐車スペースもあり、道路・気象情報も提供している。

整備費用は、市関係分(国交省分を除く)で総事業費629,984,000円。うち補助金は281,510,000円だが、総事業費の内、防災関係はなんと約41,178,000円だ。実に6.5%強を占めているのである。その内訳を見てみよう。

【建物】約7,077,000円
(防災倉庫、防災水槽、塀)

【電気】約9,034,000円
(自家発電)

【機械】約25,067,000円
(受水槽、給油設備)

見えないところにお金をかけているわけで、災害の際、こうした投資の多寡が生死を分けることは言うまでもない。貯水槽には40トンの飲料水がたくわえられ、倉庫には毛布や歯ブラシなども。災害時には重油を使い自家発電するほか、厨房での炊き出しも可能だ。その収容規模は、「施設周辺の住民の人口である700人が3日間生活可能な施設」をめざしたとのこと。この数字、「助けが来るまでとりあえず3日間、なんとか自力で持ちこたえられるような備えをする」ということだろうか。

それだけではない。ここで農産物を売る「生産者の会」では会の規約が改正され、災害時に道の駅へ避難した人に、ここで売られている農産物などが無償譲渡されるとのこと。道の駅は地元ぐるみで「市民を守る砦」をめざしているのだ。

また興味深いのは、市の進める「サイクルシティ構想」の一環で、地域の交流拠点である道の駅に自転車賃貸出す「サイクルステーション」が設置された事。「自転車をこぎながら美濃の歴史・文化・自然を肌で感じてスローライフを満喫する拠点になれば」との趣旨だ。たしかに長良川沿いのサイクリングはそれ自体、観光資源だが、実はここが災害時には避難スペースになるのである。シャワー設備もあるというから、心強い。

こうして道の駅は誕生した

この道の駅は平成19年9月1日にオープン。美濃市は道の駅の管理運営を指定管理者として第3セクター(株)美濃にわか茶屋に委託した。資本金は四千万円。美濃市の副市長が務める代表取締役のほか、従業員数は15名。三輪治男駅長以下、社員2名、パート12名が農産物直売、地域特産品販売、地域食材を活かした食の提供、屋外トイレ・駐車場の管理運営にあたり、市からは施設の管理業務に対し委託料が支払われ、同社は営業料をその売り上げに応じて市に納めている。

そもそも岐阜県が「1市町村1道の駅」を推進したのが平成9年度(当時県内99市町村)。14年度に美濃市の全体構想「日本のまん真ん中美濃市まるごと川の駅構想」のなかに、まちづくりの核の一つとして「道の駅との連携による情報発信性のある交流拠点」が位置づけられた。そして15年度に道の駅基本構想が練られたが、そのコンセプトは「道・川・まちの総合ターミナル」。翌16年度には道の駅実施計画が策定され、運営・建設計画が定まり、17年度に道の駅実施詳細設計が完成して、18年には工事着工、19年8月に完成、翌9月ついに開駅の運びとなった。そもそもにわか茶屋の場所は平成14年度に国道156号線に隣接する「曾代土地区画整理事業用地の一部」に決まったが、ここは国道と県道以北の行

築地への玄関口。国道を岐阜市から北上する時の最初の大型車両の休憩場所だ。美濃市の中心市街地や、主要観光スポットである小倉公園、川湊灯台、そして風情ある「うだつの上がる町並み」に近接しているため、そのネットワークの役割が期待できた。

美濃市では平成15年度に「道の駅基本構想」を策定するにあたり市民懇話会を立ち上げ、5回のワークショップを経て原案をまとめた。利用イメージや導入施設、運営などについて検討に検討を重ね、休憩・情報・地域連携の機能をまとめた拠点施設をつくり上げたのである。

これに関わった市民懇話会委員は実に48名にもおぼり、市議会や国交省、県関係者、バス事業者をはじめ、漁業組合、商工会議所、観光協会、連合、自治会、区画整理組合、JCC、体育協会、さらには県森林文化アカデミーや市街地商店主、デザイナーなども関わった。また、地元の旅館組合や農協、特産物管理組合、商店街組合とともに、地域づくり団体として市民林業グループや市民農業団体もかわり、さらには市民公募でも7名が参加した。このように、構想段階から数多くの分野の人の話を聞き、取り入れたことが成功の秘訣だろう。平成16～17年度には「道の駅実施計画」を策定したが、その際、「道の駅実施計画専門部会」を立ち上げて基本構想をベースに運営計画を作った。この専門部会の32名の委

員は上記の市民懇話会の委員役職の人などで構成された。

その運営計画には、公共施設としての道の駅、地域振興施設としての道の駅、採算性のある道の駅といったテーマに加え、マーケティング方針がきちり盛り込まれた。さらに建設計画として、全体レイアウト、建築物、外構（駐車場、トイレ、公園）などと共に防災施設も決定された。これには、平成16年の新潟中越地震と美濃市を襲った台風による長良川越水害の経験に根ざす「新たに作る道の駅を防災拠点として整備しよう」という人々の強い意思が感じられる。この時点でほぼ現在の施設イメージができあがったといえよう。

成功へのヒントと地域への影響

美濃にわか茶屋のケースには道の駅の成功へのヒントがいくつも浮かがる。

一つは、道の駅に併設する地域振興施設の運営主体を計画時から想定して、計画段階から協働で取り組んだこと。にわか茶屋の運営主体は第三セクターで、出資5団体の出資比率は美濃市60%、美濃商工会議所10%、めぐみの農業協同組合10%、中濃森林組合10%、長良川中央漁業協同組合10%だ。この数字から地元ぐるみの参加ということがわかる。よく「経営感覚に優れた民間主体が望

ましい」などとも言われるが、「反面、民間ではどうしても売り上げ重視のため公共性を欠くことが懸念されるから、こういう構成になったのだから、」

さらに大切なのは整備財源を確保しておくことだ。国道に設置する道の駅は国交省の所管だが、国の費用負担はトイレや駐車場などの国道休憩施設のみ。併設する地域振興施設は市の負担となってしまう。だから市負担分の事業への補助制度を探求し、可能なものは活用していくというわけだ。

また、土地区画整理事業との連携も大事だ。美濃市の場合には土地区画整理事業がスムーズに進み、ほぼ予定通りの開駅ができたということは大きい。

そしてなによりも重要なのは、「市民の理解を得ようという市側の強い意志」だとのこと。当初、「高速道路の整備が北上に向けて進み、国道利用者が減少する」という想定があったため、計画段階では道の駅オープン後の経営について懸念する声もあったが、これを乗り切れたのも完成への強い意志があつたことだった。「当駅を開設するにあたり、当時の美濃市議会では反対の声もあったようですが、それを当時の石川道政市長が説明、説得されて、地域の農家の活性化を目的として開駅されました。」と三輪駅長は語る。

にわか茶屋の売上高と来客数は別表のように着実に伸びている。ちなみに同伴者を含めた来場者人数は、レジ通過人数の1.6倍として計算しているとのこと。平成26年度は年間453,000人だから、1.6倍で来場者は724,800人ということになる。美濃市の人口21,840人(今年7月現在)に比して、この人数は多いか少ないか、皆さまはどう思われますか？来客数は春夏秋冬の行楽シーズンが多く、毎年8～10月と5月は特に賑わうそう。

売上高と来客数

年度	売上高	来客数
平成19年	121,634千円	192千人
平成20年	234,896千円	301千人
平成21年	259,981千円	327千人
平成22年	297,367千円	364千人
平成23年	337,955千円	405千人
平成24年	356,719千円	425千人
平成25年	370,576千円	442千人
平成26年	390,919千円	453千人

おもしろいのは売り上げの内訳比率だ。「旬で安全安心な良質地域農産物の提供をめざす」というにわか茶屋の農産物直売所の売り上げは道の駅の総売り上げのなんと43%を占めている。ほかに物産品販売が32%、レストラン15%、業者販売10%。農



産物の売り上げが経営を安定させていることがわかるが、そうした農産物の販売を支えるのが生産者の組織だ。平成23年3月に「美濃にわか茶屋生産者の会」が設立され、道の駅と連携する。現在会員は190名、うち美濃市内の会員は約75%である。道の駅ができてから地域の生産者数も着実に増え、地域の農業はまちがினなく活性化したが、さらに生産農家の活性化を図るため、栽培講習を実施するなど、年間を通して安定した出荷量を確保できるような努力がなされている。特筆すべきは、生産



者の意識も高まり、生産者相互で品質管理の強化に努めていることだ。農産物の販売は委託販売方式。生産者は農産物を自分で店頭に並べ、売れ残った商品は自分で回収する。また、売れ残ると思われる商品は店員が売り場から引き上げてしまい、生産者が持ち帰る。こうして買い手のニーズが直に生産者に伝わるといふわけだ。ちなみにこここの主力商品は仙寿菜をはじめとする市特産野菜のほか花卉類で、愛知県方面からの客が多いとのことである。

一方、道の駅のレストランでは、

地産地消の推進を図るため、大学や市・地域の飲食業者・生産者と連携して地域食材を活かしたメニュー作りがなされている。また、生産者名の立て札を冠した野菜・果物の料理の試食コーナーも好評で、三輪駅長も「美濃市周辺でどんなものか」とあれどんな味いがあるのか(試食を通して)知ってもらいたいですね。」と語る。

また、販売が増えたのは農産物だけではない。美濃市内の商店が来場者の多い道の駅に商品を卸すことで、市内特産品の販売促進につながり、地域商業の活性化もみられた。さらには、毎日ギャラリーでの絵画展・和紙ちぎり絵展など市民の作品発表の場があることが市民活動の活性化につながっている。毎年9月には周

アクセス



年感謝祭、毎年7月には生産者の会などイベントもある。

美濃市の観光PRのため市観光協会、商工会議所と連携して観光情報を発信し、にわか茶屋社員の観光案内のレベルアップも図っている。「世界遺産効果」の見込める美濃和紙製品の販売コーナー充実に努めているのはいうまでもない。それだけではない。道の駅の成功の波及効果は、なんと町中にもおよんでいるようだ。中心市街地の空き店舗に「道の駅2号店」を出店したところ、高齢者など「町なかの弱い弱者」への対策ともなった。数えきれない点で道の駅は美濃市にはかりきれないほど元気をもたらしたといえよう。

(構成・荒垣さやこ)

地域振興プロジェクトのご紹介

「ギフネット」広報委員会では東京とふるさと岐阜の紐帯をより深め、確かなものとしてゆくお手伝いとして、県下各市町村で独自の視点から展開されている「地域振興事業」をご紹介します。

次号のテーマとして取材を受けてもよいという関係機関の方はぜひご一報ください。

担当：ギフネット広報委員 荒垣さやこ

東京都千代田区平河町2-16-13
都道府県会館14F 岐阜県東京事務所内

東京岐阜県人会「ギフネット」係

閑話 休題

吉村 泰典

男と女——差異と差別の混同——

生殖とは生命体がこの世に現れて以来、連続と繰り返してきた生命の保持を目的とした極めて重要な行為です。ヒトは生殖により次世代を作り出し、個体の死を超えて存在することを可能にしています。有性生殖を行うヒトにおいては、生殖における男と女の役割が異なっています。性染色体やホルモンなどによって、男女は生物学的に異なる存在として特徴づけられています。しかしながら、高度に近代化を遂げた情報化社会においては、男女の社会的存在の意義やその役割、従来の社会理念や規範が変化してきています。このような社会状況の中では、その男女の歴然とした生物学的な差異の現出が困難になってきています。

ヒトはあくまで自然界に存在する哺乳動物であり、生物学的に子孫を残すべく運命づけられており、命脈をつないできました。しかしヒトは他の動物と一線を劃し、叡智や理性により自らの生活様式や社会環境を改変してきました。ヒトは社会進出の促進やより高いキャリア形成を求めた結果、それが未婚化を促進し晩婚・晩産化に繋がり、少子化に直面することになりました。わが国はこの社会的変化に、政策の上で十分に対応できなかったことが、現在のような少子化の状況を招いたとも考えられます。一方、少子化を論ずる際には、男女の生物学的な相違を十分に顧慮することも必要になります。哺乳動物とし

てのヒトにも生殖年齢の適齢期があります。特に女性の生殖機能は年齢とともに低下し、出生後卵子は新生できないことにより、卵子の老化は確実に起こります。こうした生殖に関する医学生物学的な知識を教育する視点がこれまで欠如していました。

次世代の産出と少子化問題との関連で強調しなければならぬことは、男女の生物学的な差異の論議を封じてはならないことです。これはあくまでも男女のからだの仕組みの差異を示しており、差別を意味するものではありません。生命の維持や生殖に関する生物学的な仕組みは、種を超えて共通であることは冷厳な事実であり、再認識することが大切です。ヒトにおいては動物と異なり、予防医学の進歩により平均寿命の延長がみられますが、生殖年齢の延長を期することはできません。男女の差異を十分に理解した上で、個々の自律的な選択が尊重されるべきであることには贅言を要しません。男女の差異と差別を混同し、男女平等の概念が論じられてはなりません。

吉村 泰典 プロフィール (抜粋)

【主な経歴】

1975年慶應義塾大学医学部卒業
1995年慶應義塾大学医学部産婦人科教授
2014年慶應義塾大学名誉教授
2015年福島県立医科大学副学長(業務担当)

【主な学会活動】

2007年日本産科婦人科学会理事長(2011年まで)
2010年日本生殖医学会理事長(2014年まで)
2011年日本産科婦人科内視鏡学会理事長(2015年まで)

【その他】

2013年一般社団法人吉村やすのり生命の環境研究所代表理事
2013年内閣官房参与(少子化対策・子育て支援担当)

感動しっぱなしのコンサート 岐阜が生んだ世界的歌姫

下垣真希の 25周年記念リサイタル

島根県に生まれ幼児期から下呂市や岐阜市で過ごし、愛知県立芸術大を卒業後、ロータリー国際財団の奨学生として、ドイツのケルン国立音楽大学に留学。2000年にはアジア代表としてドイツ万博閉会式で独唱し絶賛され、帰国後は命と平和の尊さを伝えるコンサートを全国で開催している。下呂温泉ふるさと観光大使もつとめる下垣真希さんにコメントをいただきました。

東西ドイツ統一の日にコンサート活動を始めてから25年。多くの方に支えられ歌い続けてくることができ、本当に幸せに思います。

私は父が無医村医療に従事していた関係で、中学卒業までを下呂で過ごしました。日本の歌への思いは、飛騨の自然が育んでくれたもの、そして音楽活動の原点は、分断された旧・西ドイツに留学したことにあると言えるでしょう。冷戦時代からベルリンの壁崩壊にいたる、まさに歴史的激動期でした。ちょうど時期を同じくして、ドイツ国際ラジオ局のDJをしていたこともあり、報道の現場からの変化を経験しました。そして平和的な統一の立役者となった音楽家たちから、私たち音楽家は、音楽を奏でるだけでなく、愛や平和といった人類普遍の価値観を伝える大切さを教えてもらったように思います。

2000年、ドイツ万博の閉幕式でアジア代表として日本の歌を披露。翌年、唱歌などを集めた初めてのCDを制作しました。そこに「長崎の鐘」を収録し、叔母に届けたときのこと。戦後50年以上たつて初めて、長崎医大で被爆し、変わり果てた姿ながら島根県のふるさとまで戻り1週間後、17歳で亡くなった叔父（叔母の兄）の最期を語ってくれました。あまりに悲惨な事実には、ドイツで体験した戦争の影、生きることにゆらぎを感ぜない戦争の愚かしさや平和の尊さとありがたみをしみじみと感じたのです。また叔父が「長崎の鐘」の原作者、永井隆博士の家に下宿していたご縁で、私も、平和を訴え続けた博士が瀕死の床であおむけになって認めた「平和を」という書を見て成長したことなどに導かれるように、以来ライフワークとして平和のコンサートを全国で開催しています。

そうしたメッセージをおりませ、集大成の25周年記念リサイタルを、11月7日（土）午後2時から、

サントリーホール・ブルーローズで開催します。

「アメイジング・グレイス」で始まるこのコンサートは、「ふるさと」「琵琶湖周航の歌」「ゴンドラの唄」「母さんの歌」「長崎の鐘」などなかなかいい日本の歌が満載。クラシックの名曲やオペラアリアに加え、世界的二胡のジャヤ・パンファンさんや、チェロとピアノのソロもあり、きつと楽しんでいただけることでしょう。

また10月3日に、リサイタルで歌う日本の歌に「みかんの花咲く丘」や「花は咲く」を加えた25周年記念CD「絆とともに生きる」をリリースできることは大きな喜びです。

これからも心を込めて歌ってまいります。近々、皆様のお目（お耳）にかかれますように。

下垣真希

コンサートやCDに関するお問合せは

050-3333-15504 クレッシュェンド企画まで。

岐阜県人会会員特別価格

一般席 5,500円 ↓ 5,000円



岐阜から世界へ

プロ5戦目にして世界王座に上り詰めた田中恒成さん20歳。
日本最速で世界王者になった田中選手に取材させて頂きました。



ボクシングはどのようなきつかけで始めたましたか？

田中：空手のパンチの技術向上の為に始めました。

一日の生活サイクルを教えてください。

田中：朝ロードワーク↓学校↓昼フイジカルトレーニング(月・水・金)↓夕方ジムワーク↓帰宅↓おやすみなさい、です。

好きな食べ物と普段の食事で気を付けていることはありますか？

田中：好きな食べ物は焼肉、寿司、パフェ！普段は肉を欠かさず食べていますね。

試合前の減量はつらいと思いますが計量後はやはり好きな焼き肉ですか？

田中：胃が小さくなっていたり、急な食事を摂ると胃がびっくりしてしまいますので、まずは雑炊を食べるのがジंकクスです。



試合前には集中力を高める為に何かしていますか？

田中：遊びたい欲、食べたい欲、飲みたい欲など、いろいろな欲を我慢する事でその欲求をすべて試合で勝つ欲に変えていく。試合が決まったその瞬間から試合までの過程が集中力を高める。特別な事はありません。

尊敬する人と夢をお聞かせください。

田中：自分が尊敬してもらえ存在になりたい。夢は、日本一、多くの人に応援してもらえるボクサー。

岐阜の一番好きなところは？

田中：僕の住んでいるのは岐阜県多治見市。自然が多く、やはり落ち着くところです。

ありがとうございます。

益々のご活躍をお祈りしております。

田中：ありがとうございます。



首都圏で岐阜県の観光・食の魅力を発信 ホテル日航東京「岐阜県フェア」を開催！



(東京都港区台場) ホテル日航東京「岐阜県フェア」が行われた。

ホテル内のギャラリーでは、岐阜県観光写真展「四季の魅力ぎふ」が開催され、「ギフネット」の表紙のカメラマンである福田氏 (Gouna midorikaze) の写真も数多く展示された。

レストランでは飛騨牛と岐阜県の厳選素材を使用した岐阜県食材フェアを実施。

また、飛騨の木や葉などを利用した創作ワークショップや美濃和紙のしおり、うちわのワークショップなどが行われ、岐阜の魅力を存分に感じられるイベントとなった。

岐阜県では、首都圏において本県観光の認知度向上、誘客促進を図るため、観光資源、食など、多面的な魅力発信を行っている。

去る7月〜8月に「ホテル日航東京」において、岐阜県

